6次化・農商工連携支援事業等活用事例紹介

Case 01 株式会社兎ッ兎 代表取締役 前岡 美華子さん

「ここでしか作れないワイン」を求めて…人との繋がりに恵まれたワイナリー作り

事業者名	株式会社兎ッ兎
事業所所在地	鳥取市国府町
代表者名	代表取締役　前岡美華子
連絡先	https://www.tottowinery.com

■ 6 次産業化に取り組んだきっかけ

芳醇なブドウの香りに、果実本来の爽やかで濃厚な後味が残る「生のブドウをかじったような」ワイン。そんな極上のワインを製造販売している兎ッ兎ワイナリーを運営するのが株式会社兎ッ兎です。代表取締役の前岡美華子さんは大のワイン好きで、鳥取でぶどう生産者として就農する前は3人の子育てに奮闘しながら、コーチングに取り組んでいました。

しかし、「日々の生活の中で農業を通じて人が繋がれる場所を作りたい」という目標があり、2007年に6次産業化を目指すぶどう生産者として鳥取市国府町に就農。国府の地理を活かした「ここでしか作れないワイン」を生み出すことを目標に、義父が農業を行っていた耕作放棄地に兎ッ兎ファームを開設しました。

以降はワイン用・生食用ぶどうの生産、委託醸造、販売を重ね、2016年には株式会社兎ッ兎を設立し、生産規模と販売規模を拡大していきました。

一方で前岡さんは「地域の方々と共につくる」という信念がありながら、最終的な醸造工程を外部に委託していることに矛盾を感じていました。そこで自社醸造を目指し、支援事業を活用することにしたのです。

■ プランの内容・取組の効果・直面した問題と解決策

自社醸造を目指すといっても、通常酒造免許は年間 6000リットル規模の製造者でなければ取得できません。小規模でも醸造所が稼働できるよう、鳥取県・鳥取市・八頭町が協力し、2016年に国から「とっとり・やず果実酒特区」の認定を受けました。これによって年間2000リットル規模の生産者でも免許の取得が可能になり、前岡さんも免許を取得することができました。

2016年に最初の事業認定を受け、ワイナリーの建設に取りかかりました。翌年には自社醸造の要である醸造設備の導入にかかる認定を受け、2017年９月に果実酒製造免許を取得、念願の自社醸造をスタートしました。その後も順調に製造量は増加し、2020年には醸造本数 6000 本を達成しました。

「今後は年２万本の醸造を目指します。」と意気込む前岡さん。ワイン以外の生食用ぶどうなども含めると、売上高は法人設立当初と比較して約13倍にまで増加しました。

前岡さんは非農家からの就農であり、農業に関する知識や経験はほとんどない状態でした。就農後も手探りでぶどう栽培を行っていましたが「多くの人との関わりに恵まれました。」と微笑みます。地元農家や行政を始めとして、6次化サポートセンターの専門家派遣制度なども活用し、専門知識を深めていきました。

ワイナリーの建設・醸造設備の導入といった支援を受け2017年に果実酒製造免許を取得し本格的に自社醸造がスタートしました。自社醸造ワインは発売後すぐに完売するほどの人気を獲得するまでに成長を遂げています。

■ 今後の展開

今回の支援は「鳥取の地でワインを作りたい」という前岡さんの夢の実現に向けてその背中を後押しするものでした。「これまで国府という地でワインを作ってこられた自分なりのキーワードは人との繋がりですね」と語る前岡さん。ぶどう生産者から酒造の道へ進み、確実に足跡を残してきた背景には、多くの方々のサポートがありました。2021年にはワイナリー内のワインセラー設置工事にも入りこれまで以上に販売促進を行っていくなど、前岡さんの夢は成長し続けます。

プラン名

いなばの里
ワインづくりを通した人づくり夢づくりプラン

成功のカギ

- ワイン原料であるブドウ栽培技術向上のため、**栽培記録の蓄積と生産工程表を見直し**
- **新商品**を投入することによる新たな顧客層の獲得と先を見据えた販売戦略
- **人材育成**とスタッフが活躍できる**職場づくり**

事業体制図

株式会社兎ッ兎

「鳥取の土地を活かしたワインを作りたい！」

〈生産部門〉	〈加工部門〉	〈販売部門〉
・ワイン用･生食用ぶどう栽培	・ワイン醸造 ・ワイン熟成及び品質管理	・自社販売 ・道の駅 ・スーパー ・ネット販売

県農業改良普及所
- ブドウ栽培技術支援
- 経営分析指導

6 次化サポートセンター

専門家派遣による
- ワイン商品化（パッケージデザイン）
- ネットショップ開設

鳥取県･鳥取市･八頭町

ワイン特区の認定等のサポート